

すい臓がんに関するキーメッセージ

1. 自身の**すい臓がんリスクを把握**しましょう
2. リスクに応じて**すい臓がん検診を推奨**します

すい臓がんの特徴

すい臓がんは早期発見が難しく、転移する力も非常に強いため、予後が悪い傾向にあります。一般に**すい臓がんの5年生存率は8.5%**と非常に低いです（がん全体の5年生存率は64.1%）。

一方で、①**すい臓がんのリスクのある人に、②スクリーニング検査をし、③精密検査を実施**することで、（広島県尾道市でのすい臓がん早期発見プロジェクト「尾道方式」）**5年生存率が20%を超える**結果を得たという報告もあります。

<特に注意すべきすい臓がんの4つの危険因子>

① がんの家族歴

親、兄弟姉妹、子どもをはじめ、血縁のある近親者にすい臓がんの患者がいる（家族性すい臓がん家系、すい臓がん患者の5-10%）。近親者に大腸がん、乳がん、卵巣がんの患者がいる（遺伝的腫瘍症候群、BRCA遺伝子変異）。本人に大腸がん、乳がん、卵巣がんの既往歴がある。

② すい管の変化

画像検査で「すい管拡張」や「すいのう胞」がみつかった。

③ すい臓の病気

慢性すい炎がある。40歳以降で急性すい炎を経験した。家系にすい炎患者が多い。

④ 糖尿病

50歳以降で急に糖尿病を発症した。治療中の糖尿病が急激に悪化した。

※ 危険因子となる生活習慣は、喫煙、飲酒、肥満

命を守る「すい臓がん」の新常識 花田敬士

リスクが複数以上ある場合の検診案

上記の危険因子を複数以上持つ人に、血液検査や腹部超音波検査などの画像検査を行い、異常を認められた場合には、精密検査（CT、MRI、EUS、ERCPなど）を行う検診の流れは有効と考えられます。また、最近ではすい臓がん検診を提供する病院も増えています。リスクが高い場合は、医療機関に相談することも検討ください。